



令和7年7月9日(水)～11日(金)の2泊3日で、1年生の文理探究科の生徒が、筑波・東京研修に行ってきました。

茨城県つくば市にある JAXA (宇宙航空研究開発機構) 筑波宇宙センター、地質標本館、地図と測量の科学館、東京都丸の内にある 3×3Lab FUTURE (三菱地所などが運営)などを訪問するとともに、筑波大学大学院生、株式会社ゼンリン高山善司会長(佐世保市出身)、ベネッセコーポレーション営業企画部課長の谷本祐一郎さんに講演をいただくなど、本当に盛りだくさんの3日間でした。この様子については、本校のインスタグラムをご覧ください。
<https://www.instagram.com/sasebominami.official/>

私も、基本的に生徒と同行しましたが、最終日は生徒と別れて、急遽、国際基督教大学(ICU)を訪問してきました。ある先輩からのご紹介で、その方は文理探究科を設置している佐世保南高校にとって、「リベラルアーツ・カレッジ」としてのICUの考え方はきっと参考になるし、可能であれば連携できると素晴らしいと思うよ、という言葉をいただいたの訪問となりました。

リベラルアーツ (ICUの大学案内から): あなたが手に入れる知識や何かではありません。「新しい知の世界」に触れ、問い、考え、他者を発見していくなかで、あなた自身が成長し、自らを開放し、変貌することです。

大学の特長については、漠然とは理解していましたが、訪問して大正解でした。緑豊かなキャンパス、ゆったりとした空間、様々な研究施設など、ここは日本の大学なのかと思わずにはられませんでした。また、大学職員の方に大学内を案内していただく中で、一人一人の学生を大切にしていることが伝わってきました。特に、学生は自分の研究分野を2年次の終わりに31の専修分野の中から選択するのですが、その選択をする際や、自分自身でカリキュラムを組む(選択する授業を決める)際、留学する際など困った時に、先輩方や大学の職員の方々が手厚く支援してくれる体制が整っていました。

さて、この日のメインは、ICUの岩切正一郎学長との面談(対話)?でした。これは、当日、大学に行って聞かされて非常に驚きましたし、当然緊張しました。私からは佐世保南高校の紹介をしましたし、岩切学長からはICUが大切にしていることを丁寧にお話しいただきました。

中でも最も印象に残っているのが、学科名となっている「アーツ・サイエンス」に込められた想いでした。

サイエンス (Science) とは?と聞くと、一般の高校生は「科学」と答えます。私もそう答えるでしょう。ところが、ICUの大学案内には、次のように記されています。

Science は理工系の分野を指すことが一般的なのですが、その語源（ラテン語の Scio、(I know)）に遡れば、文理別なく、自分にとって、あるいは世界において未知のものを
知ること、知識を意味しています。

さらに、

理論とエビデンスに基づいて人間と世界を理解しようとする情熱。その情熱がかたちとなるように、リベラルアーツはアートを大切にします。

アート (Art) とは？と聞くと、「芸術」と答えますよね。大学案内には、

まだ語られていないもの、気付かれていないものを認識可能な存在へと変形させるアート (技術・芸術・学術)

とあります。岩切学長が対話の中で、「論文を書くこともアートです」とおっしゃりました。まさに研究内容を「認識可能な存在」とするのが論文です。「アート」=芸術という固定観念がバツサリとはがされました。

大学案内には、

「対話」に参加する
「対話」でカラを破る
「対話」で受け継ぐ
「対話」が世界を変える

※対話とは、日常のおしゃべりやディベートではありません。あるテーマや問いに対して、複数人間が持論や知識をもとに語り合い、他者の意見や視点を参照し、一人ではたどり着けない高みに達する、そんな知の営みが対話です。

と書いてあります。

先日の、県内の地歴公民科の先生方の研修会で、長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA) の吉田文彦センター長も、終始「対話」の重要性を説かれていました。今の世界情勢、今回の参議院議員選挙をめぐる国内の言論など、未来へのぼんやりとした不安を感じる事が多くありますが、「対話」の持つ力を信じていきたいと思ひますし、そうした授業が佐世保南高でも数多く展開されていくことを目指したいと思ひます。



岩切学長と。専門分野はフランス文学、演劇。数多くの舞台の戯曲翻訳を手掛けているそうです



大学礼拝堂の外観
正門から続く桜並木を抜けた正面にあります